

台湾の英語教科書に見る災害と防災の表現

森 康成

はじめに

阪神淡路大震災より10年目にあたる今年は、さまざまな点から災害に対する取り組みが計画され、例年になく災害や防災が注目されている。日本の英語教科書でも災害を扱うものがあるが、海外の英語教科書では災害をどのように捉えているのであろうか。ここでは、台湾で使用されている英語教科書を取り上げて、そのあたりを探ってみたい。

1. 台湾の災害

台湾の災害について、日本人はどのような認識をもっているのだろうか。台湾ではどういった災害が特徴的であると思うか、英語Ⅰの授業で75名の生徒に尋ねてみた。結果は、地震と答えた者が25名と最も多く、次いで洪水11名、台風・大雨9名となった。

『國民中學英語學生習作第四冊』など、台湾の中学・高校の英語教科書6冊を調査したところ、次のような災害、防災関連語句が見られた。

- ・台風・暴風雨関係：typhoon, rain heavily, storm, thunder (雷), tornado (竜巻), windstorm, waterspout, hurricane (ハリケーン), cyclone (サイクロン), flood
- ・地震関係：earthquake, epicenter (震央), safety, seismic (地震の), seismograph (地震計), seismologist (地震学者), tremble (揺れる), tremor (震動), quake
- ・火山関係：volcano (火山), volcanic, eruption (爆発)
- ・干ばつ関係：drought
- ・海洋関係：huge ocean wave (大波)

多くのページで取り上げられているのは地震と台風であり、先に示した本校生徒たちの認識は妥当なものであると言える。以下に、地震と台風関連の表現を紹介する。

2. 地震関連表現

台湾は日本と同じ環太平洋火山帯にあり、地震も多いということは容易に想像できるだろう。数年前の1999年9月に台湾中部で集集大地震があり、多大な被害を出したことは記憶に新しい。『高級中學英文教科書第五冊』には、Earthquakesという教材が載っている。語い・内容ともかなり難しく、次のような科学的な説明がなされている。

Earthquakes are the trembling or shaking movement of the earth's surface. Great earthquakes usually begin with slight tremors, The immediate area on the earth's surface where the earthquake takes place is called the epicenter, and the shock waves are called seismic waves.

「揺れる」という意味の trembling, shaking, tremorなどの単語や、epicenter (震央), seismic waves (地震波)などの用語は、地震を説明するには欠かせない語句だが、日本の英語教科書では見ることがない(seismicとは「地震」を表す学術用語である)。earthquakeは、The actual cause of the quake is のように、省略形の quake で使われている。この quake も日本の教科書では見ない。

もう1つ地震の説明として必要なのは、震度など地震の規模を示す用語である。「震度」は seismic intensity と表現される。

The intensity of an earthquake is measured on the Richter scale, which goes from 0 upward.

(震度はリクタースケールで表され、0から数字が上がっていく。)* *訳は筆者による。

The highest magnitude recorded to date is 8.9.

(今までの最高はマグニチュード8.9である。)

ちなみに阪神・淡路大震災の規模はマグニチュード

7.3であった。リクタースケールは次のように使う。

The quake that happened yesterday morning was 5.5 on the Richter scale.

地震がひとたび起きれば、多くの人命が失われ、多大な損害が発生する。

Earthquakes are responsible for a large number of deaths and vast amount of destruction in various parts of the world. destructionには、地震による直接的なものと、地震から引き起こされるlandslides(地滑り)、tsunami(津波)、fires(火災)などがある。

Other damage results from landslides, tsunamis (large ocean waves) or major fires which are initiated by the quake.

3. 台風関連表現

『高級中學英文教科書第三冊』では、Wind Movementsという教材でtornado(竜巻)とtyphoon(台風)が取り上げられている。この教材も、台風を科学的に説明している。

Some are 100 to 400 miles across.

(直径160キロから640キロメートルある。)

Typhoons form over tropical oceans when a large mass of air becomes more heated than usual.

(台風は熱帯の海上で空気が異常に熱せられて発生する。)

台風には目があるが、やはり英語でもeyeである。Unusual feature of a typhoon is its “eye.”

It is roughly circular in shape and from 20 to 30 miles wide. This region is calm.

(目の形は大体円形で、直径は32～48キロメートルくらいである。目の中は穏やかである。)

興味深いのは、鳥がこの中に避難して運ばれることがあると、書かれていることである。

Birds sometimes take refuge in this calm area and ride along with storm.

台風は竜巻より速度が遅いため、進路の予報が可能であることも述べられている。

Typhoons move more slowly than tornadoes. Information thus obtained can be given to people in the path of a typhoon.

そして台風は南海の島々、フィリピン、台湾、日

本を襲う。

Typhoons often strike the South Sea Islands, the Philippines, Taiwan, and Japan.

襲うという動詞はstrikeを使うことがわかる。

台風はアメリカも襲うが、それはハリケーンと呼ばれ、インドを襲うときはサイクロンと呼ばれることも述べられている。

In this part of the world, typhoons are called hurricanes. Typhoons that occur in the Indian Ocean are called cyclones.

台湾を台風が襲うのは、日本と同じで夏である。

Typhoons usually strike Taiwan in summer.

In order to reduce the damage that a typhoon may do to the city, we must prepare in advance.

『國民中學英語學生習作第四冊』には、そのタイトルもずばり“A Big Typhoon”という短い読み物があり、その中に台風で避難する様子が描かれている。

Their house was near the sea, so it wasn't safe. They decided to go to Grandmother's house. After an hour, they got there safely. 災害に対処するsafe, safelyは頻度の高い語いである。台風では早期避難が肝心だ。

4. 他国の教科書との比較

ここまで見てきたように、台湾の教科書における災害関連の記述は、地震と台風が中心である。同じアジアで台風の通る地域であるフィリピンの英語教科書を見ると、やはり台風や暴風の記述が多く見られる。それに加えて、フィリピンは火山が多いため、火山に関する表現が見られる。

一方、アフリカのケニアの教科書を見ると、雨季と乾季があるために起こる、日照りや水不足による干ばつと、突然襲ってくる洪水の2つが主に取り上げられている。

英語の教科書を見ると、その国の災害や防災の特徴がわかる。

参考文献

齊邦媛他(2001)『國民中學英語學生習作第四冊』

台湾：台湾國立編譯館 他5冊

(兵庫県立淡路高等学校教諭)